

LIVING

2019年7月26日 1633号
次号発行は8月23日です

リビング 静岡

発行 静岡リビング新聞社
〒420-0858 静岡市葵区伝馬町16-3
☎054(255)1231

無料

地元を支えられて70年
1949年創業
大井建設株式会社
静岡県島田市川根町家山4153番地の4

INDEX

- 8 みんなで、メリークリスマス! 2019
- 10・11 リビングカルチャー
- 13~15 タウン新聞しずおか

ファイナンシャル・プランナー
FPが教える **暮らしとお金のミニセミナー&相談会**
【第4回】
2019年5月~2020年3月 月1回土曜日(全10回)
8/17 (土) セミナー 10:00~11:30 定員15名
知っておきたい 社会保障制度
~病気やけがで働けなくなったときに利用できる公的な制度について~
講師 秋山隆子氏
ファイナンシャル・プランナー(AFP認定者)
お気軽に参加ください!
相談会
13:00~14:00 / 14:00~15:00 各回1組
会場 / 日本FP協会静岡支部
静岡市葵区御幸町11-10第一生命静岡ビルディング7階
TEL.054-275-2205

SHIZUOKA HOBBY SQUARE
静岡ホビースクエア
タミヤイベント情報
スイーツデコレーション 体験教室
8月24日(土) ●所要時間 約120分
内容 ●チーズハンバーガー キーホルダー
講師 ●向島由賀さん
体験料 ●1,500円(材料費・税込)
《キッズ向け》10:00~12:00
《大人向け》13:30~15:30
★各回定員15名。お申し込み人数が定員になり次第締め切らせていただきますのでご了承ください。
スイーツデコレーション・ワークショップ
8月18日(日) ●所要時間 約30分
内容 ●ワッフルコーンサンデー
講師 ●パステルスイーツ インストラクター
体験料 ●500円(材料費・税込)
8月4日(日) ●所要時間 約30分
内容 ●サマープレート
体験料 ●500円(材料費・税込)
★間ワークショップとも開催時間は10:00~16:00。参加は随時受付(15:30受付終了)。
★制作していただく作品は食べられません。
★予告なく体験内容が変更されることがありますのでご了承ください。
★参加お申し込み・お問合せは 静岡ホビースクエア 054-289-3033まで。
会場 静岡ホビースクエア
静岡市葵区南町18-1 サウスポート静岡 3F
(JR静岡駅南口より徒歩1分)



清水港の歴史にふれる 鎌倉時代から海上交通の要衝

清水港の歴史は西暦600年代(飛鳥時代)にまでさかのぼり、百済への救援船が出航したという記録が残っているそうです。その後、鎌倉時代には海上交通の要衝として栄え、徳川時代に東海道江尻宿が置かれると、海陸両面のにぎわいを見せました。また家康公が、大阪夏の陣の勝利に貢献したとして廻船問屋42軒に特権を与えたことから、幕府から重用され、清水湊(みなと)は交易地として大いに栄えました。

港の発展を支えた人々 清水の海運業者の心意気



清水港開港に尽力した人々(写真提供/フェルケール博物館)

1899年、清水港開港 近代港湾としての幕開け

清水港の近代港湾としての幕開けは、1899(明治32)年8月4日の開港場指定から始まります。明治期における蒸気機関の登場や、産業の近代化と同じくして開港し、お茶の海外輸出に始まり、柑橘、缶詰、オートバイ、楽器の輸出など、港域を順調に拡張していきました。



昭和初期、石炭を運ぶ荷役の様子。後ろの写真は今のエスバルスドリームプラザ付近



昭和初期、国鉄清水港線清水港駅に木材積み込み用に建設された「テルファ」。日本に唯一残る産業遺産として、エスバルスドリームプラザ前にある(写真提供/フェルケール博物館)

「清水港の発展は、江戸時代の廻船問屋に端を発する多くの海運業者の結束と努力を支えられてきました」と話すのは、鈴与経営企画室の水野仁志さんです。「巴川沿いに並んだ廻船問屋は、富士川を通して山梨まで塩などを運び、米を持ち帰るなどの商いをしていた。天保の改革で特許が停止された際も、商いを継続させるために力を合わせたそうです。やがて東海道線が開通し、海運物流への危機感を持った業者たちは、海外輸出が認められる開港場指定を求めて陳情。苦勞の末、清水港の開港に成功しました」。開港によって、お茶だけでなくマゴロの油漬やミカンの缶詰の輸出などが始まり、海外からは木材を輸入。缶詰製造や製菓業などの地場産業や、臨海工業の発展など、清水港は静岡経済の発展に結びついていきました。
「しかし時代の流れから今、清水港を取り巻く産業構造は大きく変化しています。今こそ港の役割を見直し、時代に即応した新たな魅力を生み出していけば、清水港は今後も日本の中で十分に貢献している港になれると思っています」

開港120周年迎え、さらに魅力的に
清水港の歴史と未来
「官民あげて祝う開港祭」、国の行事である「海フェスタ」の開催など、盛り上がりを見せる清水港。「海洋文化都市構想」など、さらなる発展も期待されます。そこで、清水港の「歴史と未来」を紹介します。(小林かおり記者)



清水港の歴史をひもとく「フェルケール博物館」
同館には清水港の歴史を物語るさまざまな資料が展示されている。8月4日(日)まで、開港120周年記念事業「興津 水口屋と西園寺公望(第1室)」「缶詰ラベルと蘭字(第2室)」を開催中
開催時間 / 午前9時30分~午後4時30分
休館日 / 月曜(祝日・振り替え休日の場合は開館)
<https://www.suzuyo.co.jp/suzuyo/verkehr/index.html>

開港120周年迎え、さらに魅力的に

◎1面から続く

清水港の歴史と未来



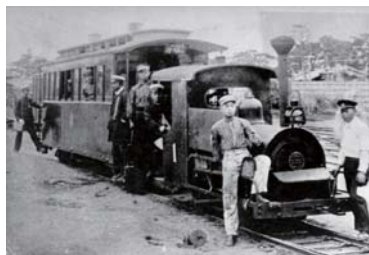
緑茶の積み込みの様子（写真提供/フェルケール博物館）



輸出される茶箱に張り付けられていたエキゾチックな蘭字。今見ても、そのデザイン的美しさに魅了される（写真提供/フェルケール博物館）

お茶を清水港から直輸出 アメリカやヨーロッパへ

清水港が開港される前までは、横浜に運ばれ、横浜港から輸出されていた静岡茶が、初めて清水港から米国シアトルに輸出されたのは1906(明治39)年のこと。お茶の直輸出が始まって徐々に活気づいていった清水港は、わずか4年後にはお茶の輸出量日本一、1918(大正7)年には全国のお茶輸出量の約8割を占めるようになりました。古くからお茶の流通の拠点だった静岡市葵区安西や茶町には製茶工場が整備され、外国商社が立ち並ぶなど、お茶の直輸出は静岡に産業・経済の発展をもたらしました。当時、茶箱に貼られた木版印刷・多色刷りのラベル「蘭字」は、日本文化と西洋文化が融合した斬新なデザインが多数考案され、今なお注目されています。



軽便鉄道「ポールドウイン」型727(小林三郎さんの撮影・資料協力/静岡鉄道)

お茶の町から清水港へ輸送 茶業と密接だった静岡鉄道

「清水港へのお茶輸送は静岡鉄道の礎」と話すのは、静岡鉄道総務部の森田陸さん。「清水港までお茶を運ぶ手段として軽便鉄道が敷かれたのが1908(明治41)年のこと。その事業を引き継ぎ、駿遠電気(現静岡鉄道)が創立したのが1919(大正8)年でした。やがて、電化複線化などの整備を行い、製茶およびお茶取引の集積地の安西地区から清水港までの流通の一翼を担いました。静岡・清水各々の地域で路面電車を運行していた時代もありました」。以来、バス事業やタクシー事業、遊園地

や商業施設・スーパーマーケット事業経営など、その発展ぶりはいまでもありません。

清水港を核とするこれからのまちづくりについて企画部の高鳥守旦さんは、「清水港が発展することはモノと人の出入りが活発になること。人の輸送システムの一層の活性化と、インバウンドなど交流人口の増加に期待しています」と話してくれました。

コンテナ輸送に対応 日本の海上輸送の要に成長

激動の時代を迎えた昭和。焦土の中で終戦を迎えた清水港は、再建への足取りを見せず。1952(昭和27)年には「重要港湾」の指定を受け、輸出入貨物も増加。海上輸送のコンテナ化が急速に進展しました。興津第一・第二埠頭に続き、袖師第一・第二埠頭も完成。巨大なガントリークレーンが活躍しています。一方、日の出埠頭には近年、数多くの外国客船が寄港し、国際色豊かな港の魅力を醸し出しています。



多数のコンテナとガントリークレーンが並ぶ埠頭（ふとう）



駿河湾越しに富士山が臨め、静岡市民の温かいおもてなしが好評な清水港。寄港する外国客船は年々増加している。

清水港から始まる未来 「清水みなとまちづくりグランドデザイン」



みなとまち清水の未来を行政や企業、市民で共有しようと、県と市、民間企業が「清水みなとまちづくり公民連携協議会」を設立。清水港と周辺の将来像を、「清水みなとまちづくりグランドデザイン」として発表しました。提案したのは、「ひらく・みなとまち

Shimizu Port City Grand Design
Open! Port City

清水みなとまちづくり
清水みなとまちづくり
清水みなとまちづくり 公民連携協議会

清水みなとまちづくり公民連携協議会
https://shimizuportcity.jp

～みんなでひらく・みんなにひらく みなとまち しみず～。人々が集まってさまざまな活動が起こるとまちが目標です。この先20年の将来に向けて、各地区のプロジェクトを進めていくそう。詳細はHPで確認を。